

全国学力・学習状況調査から

3年生を対象に4月18日(火)に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。全国、山口県の平均正答率について下のとおりの結果となりました。

区分	全国	山口県	本校： 対全国・県比
国語A(主として知識)	77.4%	79.0%	7%程度高い
国語B(主として活用)	72.2%	73.0%	10%程度高い
数学A(主として知識)	64.6%	66.0%	5%程度高い
数学B(主として活用)	48.1%	49.0%	3%程度高い

【成果と課題】

《教科》

国語A、国語B、数学A、数学Bのいずれにおいても全国平均、県平均を上回る結果でした。昨年度苦手とされていた記述式の問題形式でも問われる内容によって大きな差が出ているところが特徴的です。文章から理由を探したり、正しく直したりする問題は得意ですが、自分の考えを述べたり、数学的な手法を使って論理的に説明したりする力が不足しています。

- ・**国語A(主として知識に関する問題)**では、「読む能力」「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」すべてにおいて高い結果でした。
- ・**国語B(主として「活用」に関する問題)**では、「内容を理解する力」「必要な情報を読み取る力」「文章を構成する力」「資料を活用して話す力」「工夫して相手に伝わるように話す力」については高い結果が出ていますが、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題は全国平均・県平均をやや下回る結果となりました。
- ・**数学A(主として知識に関する問題)**では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」いずれにおいても全国平均、県平均をやや上回る結果でした。
- ・**数学B(主として「活用」に関する問題)**では、「図形の対称性を的確に捉える力」「表やグラフから必要な情報を読み取る力」「説明の筋道を読み取り数学的に表現する力」に関する問題は高い結果が出ています。一方「事象と式を的確に捉え、事象が成り立つ理由を説明する力」「資料の傾向を読み取り、数学的な表現を用いて説明する力」が不足していることがうかがえます。

《生徒質問紙》

「自分にはよいところがあると思う。」「将来の夢や目標をもっていますか。」「(自尊感情)「学校の規則を守っている。」「(規範意識)「学校に行くのは楽しい」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」「人が困っているときは、進んで助けている。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」「家で、学校の宿題をしている。」「地域の行事に参加している」など多くの質問で全国平均を上回っていました。

課題としては、家庭学習の時間が短い(宿題はするが、予習はしない)、TVやビデオ(DVD)の視聴時間が長い、新聞を読まない、読書時間が短いという結果がでました。

本校では、この結果を受けて、職員全員で次のような視点を大切にしていきたいと考えています。

- 授業や総合的な学習など、**問題解決的な学習**を取り入れ、生徒自らが課題意識をもってその解決に取り組む課題の提示やその解決の仕方(グループ学習の進め方)を体得できる授業展開に留意する必要がある。=思わず考え、解決してみたくなる教材づくりや発問の精選。柔軟な学習形態。
- 今後の授業研究や互いの授業を見合うことで**授業技術**をさらに磨いていき、本校の研修主題の「表現力の伸長」をめざしたい。生徒の知的好奇心と課題解決意欲を喚起する教材、解決への見通しをもたせる発問づくりを心がけ、生徒同士の関わりを保証する。
- 自分の考えをまとめて書くこと、他人の前で自分の考えを発表する場を多くし、生徒に多くの経験と成功体験を味わわせたい。そのために、平素からの**受容的な学級・学年集団づくり**を行っていききたい。
- 全学年で行っている「自主学習ノート」を活用し、**計画的・効果的に家庭学習**を行う習慣を身につけさせたい。そのための具体的な働きかけを模索したい。
- 「**生徒とともにある**」ことを大切にし、彼らのちょっとした思いやりのある言動、授業での鋭いつぶやきなどを拾い上げることができる広いアンテナをもちたい。